

東京オープンハイナイト祈禱課題 2021年9月

1. エルサレム近郊の山火事からの復興を覚えて

8月15日、エルサレム近郊で大規模な山火事が発生しました。乾燥した気候と強風にあおられて火は3日間燃え続け、イスラエル史上最大規模の火事となりました。幸い犠牲者はいません。



©Israel Police CC BY-SA 3.0

6200エーカー(東京ドーム536個分)以上の森林が焼失

エルサレム近郊での山火事は、珍しいことではありません。しかし今回の火事は、規模が大きく、立ちのぼった火は50mにもなり、広範囲で空が赤く染まりました。10の町で、少なくとも2千人が避難を余儀なくされました。

消防隊員1500人の必死の消火活動によって、火事は、52時間後に鎮火しました。特筆すべきことは、緊張が続くパレスチナ自治政府が自主的に消防車と消防隊員を派遣し、共に消火活動を行ったことです。イスラエルのガantz防衛大臣は、ツイッター上で「パレスチナ自治政府のアッバス氏が、率先して消火団を派遣して下さったことを感謝します。団結して人命救助することは、私たちの共通の関心事です」と感謝を伝えました。

今回の火災で、6200エーカー（東京ドーム536個分）以上の森林が焼失、1万以上の野生動物が死にました。被害総額は7億5千万シェケル（日本円で250億円以上）。生態系の復旧には数十年かかると専門家は伝えています。文化的価値が高いハーブの工房では、40年分の作品が焼失しました。人々の心労も大きく、中には過去にも、山火事で財産を失った人もあり、トラウマを抱えていると告白しています。

近年、世界各地で大規模な火事が発生しています。今回の火事も、自然発生説がある一方、衛星写真では、人通りの少ない場所で、3カ所同時に不審火が確認されており、放火の可能性で調査が進められています。

イスラエルはこの国を攻撃しようとする者たちによって度々火災に苦しめられてきました。今年の夏は、これ以前にも、エルサレム近郊で火事が発生していて、放火の可能性が指摘されています。ガザ近郊では、度々ガザから爆弾付きの風船や^{たこ}凧が放たれて、農地が焼かれて

います。聖書の舞台、古の旅人が愛し、都上りを目指して眺めたエルサレム近郊の山々の復興のため、心を合わせて祈りましょう。

「エルサレムを山々が取り囲んでいるように 主は御民を 今よりとこしえまでも囲まれる」
詩篇125:2

- 1.財産や土地を失った方々が必要な支援を受けることができ、生活が再建されるように。
- 2.焼失した山々や土地を主が復興させてくださるように。
- 3.放火などのさまざまなテロによって、イスラエルを攻撃しようとする悪しき計画がとどめられるように。
- 4.エルサレムの平和を願う人々が世界中に起こされて、とりなしの祈りが強められるように。

2. コロナ禍で疲弊する日本の救いを覚えて

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界は一変しました。長期化する新しい生活様式は、人々にストレスや不安、孤独感を与え、心に大きな影響を及ぼしています。



新しい生活様式の長期化は人々の心に影響

厚生労働省は昨年9月、新型コロナが人々の心に及ぼしている影響について調査するため、アンケートを実施しました。その結果、回答者の半数以上が何らかの不安を抱えていることが分かりました。自分や家族が感染しないか、仕事や収入の道は保たれるかなど、置かれた状況によって不安の内容はさまざまです。

しかし、その思いを相談しようにも、他人との接触が制限されている今、孤独に陥り、うつ症状に悩んでいる人も少なくありません。日本の自殺者の数は、一昨年まで減少傾向でしたが、昨年増加に転じました。特に20代の自殺者数は前の年より400人以上も増えています。

現在、第5波が急拡大中です。それとともに、実際に感染して苦しみの中にある方々、家族や近い人々が感染して看病や対応に追われたり、また家族との悲しい別れを体験する人たちも増えていて、その悲しみや不安、孤独感は計り知れません。

ユダヤ人は困難に遭う時、神のことば、特に詩篇から慰めを受け、祈ってきました。詩篇には、悲しみ、叫び、賛美、祈りなど、人々の赤裸々な感情がつづられています。私たちも日本の救いのために、詩篇の作者のように心を注ぎ出して、とりなしてまいりましょう。

「民よ どんなときにも神に信頼せよ。あなたがたの心を 神の御前に注ぎ出せ。
神はわれらの避け所である」詩篇62:8

- 1.急速に拡大するコロナ感染の波がとどめられるように。
- 2.孤独や不安を抱える人々に主の慰めと具体的な助けがあるように。自殺を考える方々がとどめられるように。
- 3.クリスチャンの祈りが天に届き、多くの日本人が真の神に立ち返るように。

3. BFP韓国を覚えて

BFP韓国が8月30日に7周年を迎えました。BFP韓国の設立メンバーは、元々日本支部を通じて、熱心にイスラエルを支援していました。そして、日本と韓国が手を取り合い、「兄弟として共にイスラエルに仕えていく」というビジョンをもってBFP韓国がスタートしたのです。この節目にあたって、BFP韓国局長のハン・トゥーリムが、韓国のクリスチャンが置かれている状況と共に近況を語ってくれました。

「日本のBFPファミリーの皆さん、こんにちは。いつも愛と関心を持って祈ってくださり、ありがとうございます。全世界を襲ったコロナで韓国も大変な時を送っています。今、多くの国民は現在の政権が、北朝鮮との関係を深めていることに不安を抱えています。クリスチャンの中にも、政府の方針に賛同する人たちと、反対する人たちがいて意見が分かれています。昨年、政府に抗議する人々が大統領府の前に集まり、クリスチャンも大勢参加しました。

今、多くのクリスチャンが、コロナが政治的に利用されて、迫害を受けていると感じています。例えば、百貨店やショッピングモールには人数制限はありませんが、主日礼拝は、教会の大きさに関係なく、20人未満や教会員の10%未満とするなどの規制があります。コンサートや結婚式に対しては、教会のような厳しい規制はありません。このような中、韓国のクリスチャンが主の前にひれ伏し、謙遜な心を持って、主の御心を求めることができるようお祈りをお願いいたします。そして、来年の3月には大統領選挙があります。北朝鮮との関係や日韓関係など外交上でもとても重要です。主の御心にかなうリーダーが与えられるようお祈りください。

経済的には激しい物価上昇が起こっていて、特に不動産が不安定です。BFP韓国の事務所も家賃が高騰したため、来年の3月までに新しい場所を探さざるを得ない状況です。

このような困難の中でも、支援者の皆様は、変わらずに、BFP韓国を通じて、イスラエルを支えてくださっていて、支援者の皆様に本当に感謝しています。スタッフたちも子育てや仕事を持ちながら献身しています。

BFP韓国は7年間主の恵みに導かれてきました。これからも祈りと支援を持ってイスラエルと共に立っていきたいです。日本のBFPファミリーの皆様と祈り支え合いながら前進できることを心から感謝しています。いつも祈りをもって応援してくださりありがとうございます。私たちも日本とBFPファミリーの皆様のために祈っています。シャローム！シャローム！」

「主はご自分のすべての道において正しく またすべてのみわざにおいて恵み深い方。主を呼び求める者すべて まことをもって主を求める者すべてに 主は近くあられます」詩篇145:17～18

1. コロナ禍で政治的な圧力を感じているクリスチャンたちが、主の御力によって強められるように。
2. 来年3月の大統領選挙に主の御心にかなうリーダーが与えられるように。
3. BFP韓国の局長とスタッフ、その家族の健康と霊性が支えられて喜びをもって使命に邁進まいしんできるように。事務所移転のためにも必要が満たされるように。



BFP韓国の皆さん
(2019年の設立5周年時に撮影)



特定非営利活動法人 **B.F.P. Japan** (ブリッジス・フォー・ピース)

〒182-0001 東京都調布市緑ヶ丘 2-40-22 TEL.03-5969-9656 FAX.03-5969-9657 URL: www.bfpj.org